

学校教育目標	「平戸に学び 自ら学び 生きる喜びを実感できる学校」					
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら学ぶ意欲を持ち、確かな学力を身に付け、自らの可能性を拓く「力」を育てます。(知) ○ 豊かな体験を通して感動する心を大切にするとともに、互いの違いを認め合い、おもいやりのある「心」を育てます。(徳) ○ 健康で安全な生活を心がけ、運動に親しみ、たくましい心と体づくりに努め、自他の生命を大切に「心」を育てます。(体) ○ 地域に学び、地域に生きる一員として、社会に貢献しようとする「心」を育てます。(公) ○ 日本の伝統文化の理解を深め、異文化を尊重する態度や心を身に付け、国際社会で活躍するための「コミュニケーション力」を育てます。(関) 					
学校概要	創立 36 周年	学校長 阿部亮一	副校長 西田いずみ	2 学期制	一般学級: 18	個別支援学級: 3
	児童生徒数: 657 人		主な関係校: 平戸小学校 平戸台小学校 東品濃小学校 品濃小学校			

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	平戸中	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
	平戸中学校 平戸小学校 平戸台小学校 東品濃小学校 品濃小学校	自ら学び 互いの違いを認め思いやりの心を持ち、地域や社会とのつながりを大切に子ども ・小中ブロック協議会の開催 ・ブロック内同日の授業公開、地区懇談会 ・合同授業研究会の開催 ・第三者評価の相互実施 ・児童生徒交流日の実施 ・生徒会本部役員による小学校訪問
<持続可能な社会の創造に貢献する力> <言語活用・コミュニケーション力> <問題発見・課題解決能力>		

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的・自治的な態度を育て、健康で安全な学校生活が送れる「活気」ある学校づくりを推進します。 ・生徒が主体的に学び、判断し、行動し、自らが問題を解決していこうとする力を培う学校づくりを推進します。 ・教育の専門家としての自覚をもって授業や行事に取り組み、「魅力」ある学校づくりを推進します。 ・小中一貫教育、保護者と地域、関係機関との連携などを意識して地域社会に「開かれた」学校づくりを推進します。 ・教職員一人ひとりが学校経営に主体的に参画し、チーム力を生かし組織力を構築し「信頼される」学校づくりを推進します。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①新学習指導要領の完全実施にあたり、すべての教科において知識・技能を土台とし「思考力・判断力・表現力」を身につける指導を重点的に行う。 ②基礎学力の向上に向け、平戸の時間の見直しや放課後や定期試験前の学習相談を充実させる。 ③学力学習状況調査の分析を行い、授業改善を行うとともに、生徒の具体的な指導と評価につなげる。 ④クロームブックによる、双方向のICT教育を実践する。 ⑤ロイロー等を活用し、家庭学習の充実を図る。
担当 学習指導(事務管理)	
豊かな心	①道徳教育の要である道徳科の指導内容、指導方法について研究を深め、主体的に考え、議論する道徳科の授業を実践する。また別業を活用するため、各教科等で行った道徳的価値等について進捗状況を共有できるよう工夫する。 ②「豊かな心」の育成に向け、生徒会活動や学校行事を活用し、「思いやりの心」「感謝する心」を育てるとともに、自己有用感につながる教育活動を実践する。
担当 学習指導	
健やかな体	①昨年度続き、「食育」を重点的に行う。具体的には、家庭科と総合的な学習の時間を活用し、「食と健康のつながり」というテーマで学びを深めていく。また外部講師を招き、望ましい健康管理と生活習慣を構築する取組を実施する。 ②感染症への正しい知識を指導し、予防に向けた具体的な取組等を考え、実行する。また熱中症の予防に向けた環境整備や、環境管理を徹底的に行う。
担当 保健安全指導	
特別支援教育	①特別支援委員会を随時開催し、配慮や支援を要する生徒の状況を細かに把握し、適切な指導内容や指導方法について検討する。また個別の教育支援計画、個別の指導計画について、全教職員でその内容を共有し、組織的指導を実践する。 ②学習室(特別支援教室)の指導体制や指導内容をプログラム化し、全教職員で指導にあたる。
担当 特別支援委員会	
生徒指導	①年度当初にYPアセスメントシートを活用し、生徒の状況をしっかりと把握するとともに学級運営に生かす。また定期的な教育相談に加え、放課後等の時間に生徒が相談しやすい環境を設定する。 ②ブロック内4小学校の児童指導担当者との定期的な打ち合わせをもつとともに、管理職、生徒指導専任による小学校訪問を実施する。 ③生徒の居場所として、学校図書館、学習室、保健相談室などをいつでも利用できる環境づくりを行い、生徒一人一人に寄り添う指導を徹底する。
担当 生徒指導	
SDGs	①持続可能な社会に貢献しようとする生徒の育成に向け、各学年で「環境教育」「健康教育」「地域理解教育」を実践する。特に環境教育においては、環境課題に向き合い、その課題解決に向けた具体的な取組について学びを深める探究的な学習を継続的に行う。 ②キャリアパスポートを活用し、職業や勤労、自らの進路について探究課題を設定し、学びに向かう力、人間性の涵養に繋げる。
担当 研究推進	
地域連携	①各学年でテーマを設定した防災学習を行う。その際、地域人材を活用したり、地域にある社会資源を活用したり、地域の防災学習につなげる。 ②校内の避難訓練や地域防災拠点訓練に参加し、「自助」「共助」「公助」について考え、地域における自らの役割を知るとともに協力できることを発見する。
担当 保健安全指導	
いじめへの対応	①生徒が安心して学校生活を送れるよう、全教職員で生徒に寄り添う姿勢に努め、生徒がいつでも相談できる環境づくりに努める。 ②長期休業後のすべての生徒を対象とした2者面談に加え、年度当初や行事終了後に面談期間を設け、生徒の悩みや不安を聞き、具体的な支援や指導に役立てる。 ③いじめ防止対策委員会を毎月開催するとともに、いじめの疑い、いじめに繋がる行為が発生した場合は直ちに全教職員による職員会議を実施し、情報共有及び具体的な対応策について検討する。
担当 生徒指導	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①学校運営協議会を年4回開催し、各分科会の運営や議論に教職員が参加し、よりよい学校運営につなげる。 ②小学校等の合同授業研究や授業交流を行い、自らの教科の授業改善に役立てる。 ③働き方改革に向け、新たに始まった教育課程(弾力的な授業時間やコマ数等)を検証し、生徒と向き合う時間の確保に努める。また部活動のあり方や会議の短縮などできることを確実に実施、改善していく。
担当 管理研修部	